

鳥取県日野郡江府町方言の副助詞

原 一浩

I はじめに

- 1 調査対象地 鳥取県江府町は、鳥取県の西部に位置し、同町の東一帯は陰陽を分離する中国山地によって岡山県真庭郡川上村、新庄村と接し、西は日野郡溝口町、南は日野町、北は西伯郡大山町および東伯郡関金町に接した東西 11.8km、南北 13.5km、面積 124.66k m² の山村地域である。県西部の中心都市である米子市に 24km、県庁所在地の鳥取市へ 125km の位置にある。平成 4 年 9 月 1 日現在、世帯数 1,201 戸、人口 4,568 人で、大山の麓、日野川沿いに広がる町である。近年、米子自動車道の開通により、町中心部にインターチェンジも設けられ、交通の便は良い。（『江府町町勢要覧』1992 年 10 月発行より抜粋）
- 2 調査年月日 1998 年（平成 10 年）6 月 23 日（火曜日）
14 時 20 分から 17 時 10 分まで
- 3 話 者 小田 隆（おだ たかし）
1926 年（昭和 2 年）3 月 12 日生まれ。71 歳。
- 4 調 査 者 原 一浩、江端 義夫
- 5 調 査 場 所 江府町教育委員会 教育長室
- 6 調 査 方 法 統一調査票による質問調査
- 7 そ の 他 アクセントは上線で記す。

II 調査結果

（1） 添加・例示・提題などをあらわすもの

A 添加《さえ・も》

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。

○ アメバツカイデ ナシン カジェマデ フイテ キタ。

2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。

○ コトシャー ホーネンデ コメバツカエーカ ムギマデ ヨー デキタ。

B 予想外の事実《さえ・だけ》

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。

○ ショーガツコーノ コドモデサエ ミヤスーニ ワープロオ ツカヨージェ。

4. (宝くじが) 当たると思っていなかっただけに嬉しい。

- タツカラクジガ アターナンター オモーチョランダケー ソリヤー ウレ
シューター。

C 条件《さえ》

5. 暇さえあれば釣りに行っている。

- ① ヒマサエ アリヤー サカナツリニ イキョール ソ。
② ~サカナリツオ ショール ソ。

D 例示《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて》

6. まあお茶でも飲んでください。

- マァー チャデモ ノマハイ ヤー。

7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。

- ① ミヤゲン スンナラ コノ マンジューワ イー ジェ。
② ~マンジューナンカエ ドゲ ナラー。

8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。

- トビアガーホド ウレシカッタ。

9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。

- ① マサカ コンタノ ミミー ハエター オモワザッタ。
② マサカ コンタノ ミミー マデ ハエター オモワザッタ。

10. ながるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。

- ① タタクヤラ ケーヤラ ローチキダッタ。
② ~ロージキデ アッタ。

11. 私になり相談してくれれば良かったのに。

- ウランナット ソーダンシサラ ヨカッタ ワエ。

12. 野菜なんていくらでもできる。

- ヤーサイヤナンカ ナーンボデモ デキー ワヤレ。

一対の語の例示《だって》

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。

- ショーユモ ミソモ ミンナ ワガヤデ ツクリヨッタ ワエ。

《味噌と醤油を一括して、シオソと言う。》

択一《なり》

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。

- ワシカ オトートガ テゴニ イク ワエー。

《兄姉という代名詞は用いるが弟妹という代名詞は通常用いず固有名詞で言う。》

例外でない《とて》

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだろう。

○ ソンチョーダ イッタッテ ソゲ スルヨホカ ナカッタダラー ジェ。

列挙《も》

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。

○ ハルラシユ ナー ナッテ ンメモ サクラモ イッペンニ サエタ ガナー。

同類の暗示《も》

17. テレビもそろそろ買い替えよう。

○ コノ テレビモ ソロソロ カイカエニヤ イケン ナー。

やわらげ《でも》

18. まあお茶でも飲んでください。

① マー チャデモ ノマハイ ヤー。

② ～チャナツ ノンデ イカン カヤー。

E 包括《など》

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。

○ ボンニヤ コドモヤ マゴガ モドッテ クーケー。

F 提題《だって》

20. ゲートボールだってできるよ。

○ ゲートボールデモ スツ ジェ。

話題にあげる《って》

21. 何だい、いいことって。

○ ナンダラー イーコト イーッテ。

極端なものの提示《でも・くらい・すら・も》

22. そんなこと子供にでもできるよ。

○ ソギヤ ナー コター コドモンデモ デキー ワ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。

① クーニヤ コトガカンヤニ シタエーモンダ。

② クチオ スギユ。

③ クチドモ ナー スギュージャ ナーカ。

《口ぐらいは、過ぎるじゃないか》

24. 名前すらろくに覚えていない。

① ナマエダエ オボエテ イナーツアラン。

② ナダエ ～ 《名さえ》

25. 弁当代に千円もかかった。

○ ベント ダエ ニ シェンエンモ イッタダ ジェ。

軽いものをあげる《さえ》

26. これさえあればもう大丈夫だ。

○ コレサエ アリヤー シェワー ナエ。

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G 分量・程度《ほど・くらい・ばかり》

27. 旅行で三日ほど家をあげた。

○ ミッカバカエー ルスン シタ。

28. 茶碗に半分くらいください。

○ ハンプホド ゴシエ。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。

○ コドモンデモ ワカー ミヤスイ ホンダ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。

○ イツシューカンホド ルスン スーケー タノム ワー。

H 基準《ほど》

31. 今年の寒さは去年ほどではない。

○ コトシワ サムイッタッテ キョネンホドニワ ナエー。

I 理由《ばかり》

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。

① チョッコエー キュー ユルメチョッタラ イライ コトン ナッタ。

② ~バッカエニ イライ コトン ナッタ。

J 「それにふさわしく」《だけ》

33. 苦勞しただけあって人間ができています。

○ クローシテ ゴザーケー ニンゲンガ デキチョー。

形式名詞的用法《なんか》

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。

○ マエーニチ ンマゴノ モリヤナンゾ シテ シェワシー。

「それこそ」《こそ》

35. それこそバケツををひっくりかえしたような大雨だ。

○ ソエコソ バケツー フックラカエタヤーナ オーアメダッタ。

「~ばかりか」《ばかり》

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。

○ オヤジ バッカエーカ カカサンマデ スポーツニ スイテ ゴザー。

K 今にも行われる《ばかり》

37. もう食べるばかりにしてある。

○ クーバッカエーニ シテ アー。

動作の完了直後《ばかり》

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。

○ イマ シゴトカラ モドッタ トコダ。

基準《まで》

39. 駅までもうちょっとだ。

○ エキマデー モー チョンボイダ。

L 等量の反復《ずつ》

40. 一人ずつ呼んで話をした。

○ ヒトリワッテ ヨンデ ハナシタ。

M 等量の配分《ずつ》

41. 一人に二個ずつみかんをやる。

○ ヒトリニ フターツワッテ ミカンオ ヤラー。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N 限定《しか・だけ・ばかり・きり》

42. 酒はたまにしか飲まない。

○ サケワ タマニシカ ヨー ノマン ジェ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。

① ケサワ ネボーシテ パンホド クッテ キタ。

② ケサワ アサネオ シテ～。

③ ホンノ パンホド クッテ キタ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。

○ ソゲー ン ベンキョーバツカエ シチヨラー カラダン ワルイ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植えのこと》

○ ウチノ タガ ノコッチョーホッデ ヨソノワ ミーンナ スンダ。

O 強調《しか・こそ》

46. もうこれだけしかないよ。

○ モー コレホッダ ジェ。

47. 今年こそいい年にしたい。

○ コトシヤー イー トシン ナリヤー イー ナー。

P 限界《だけ・まで》

48. これだけ言っても分からないのか！

① コエホド イッテモ ワカラン ダカ。

② コエホド イッテモ ワカラン ダカヤ。 《詰問調》

49. 2千円くらいまでなら何とかなる。

ニシェンエングライマデナラ ナントデモ ナラー。

(4) 陳述的なもの

Q 「～ば～だけ」《だけ》

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。

○ ヤリヤー ヤーホド ヨー デキー。

「仮定形・ば・こそ」《こそ》

51. 心配すればこそ言うんだ。

○ シンパエー スリヤーコソ ユーダ ガナー。

「こそ・仮定形」《こそ》

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。

① モンクワ タレードモ ヒトノ ユーコットモア キキヤー セン。

《「ユーコットモア」は早い》

② モンクワ タレードモ ヒトノ ユーコトドモアー キキヤー セン。

《「ユーコトドモア」はゆっくり》

53. 「～でこそあれ《コサレなども》」という言い方はありますか。

《該当する言い方が無い》

「未然形・ば・こそ」《こそ》

54. 押しても引いても動かばこそ。

○ オイテモ ヒツパツテモ イゴキヤー セン。

「～こそ」《こそ》

55. 失礼なことを言わないでこそ。

○ ヒトー バカン シタ コトー ユー ナ。

《「こそ」は言わない》

「～こそ～が」《こそ》

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。

① イマワ イゴカンドモ ムカシヤー ヨー デアルキョータ。

② イマデコソ～。

「～ば～ほど」《ほど》

57. 働けば働くほどもうかる。

○ ハタラキヤー ハタラクホド モーカー。

R 打ち消しとの呼応《まで》

58. 村長に聞くまでもないことだ。

○ ソンチョーニ キクマデモ ナエー コトダ。

否定との呼応（それさえもない）《も》

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。

○ アサマカラ シェワシューテ ヒーメシモ クワ-レン。

否定的取り上げ《など》

60. こんなものなどいくらでもあるよ。

- ① コゲアナ モンドモア ナッポデモ アー。
② ナンボデモ アー。

全面否定《だって》

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。

- ダェーダッテ ソガナ コト イワレリヤー オニー ワエ。

S 次の動作が不可能《きり》

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。

- ジューネンマエーニ ココー デタツキリ イッペンモ モドラン。

(5) モダリティー的なもの

T 不確かな気持ち《やら・か》

63. いつのまにやら眠ってしまった。

- シランナカエーニ ネチョッタ。

64. 何のことか分からない。

- ナンノコトカ ワカラン。

推定《か》

65. 後で遊びに行くかもしれない。

- アトカラ アソビー イッカモ シラン。

どちらか分からない《やら》

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。

- クーヤラ コンヤラ ワカラン。

はっきり言わない《やら》

67. どこやらへ引っ越したそうだ。

- ① ドコダカ イカハツタゲナ。
② ドコダカ イカハツタゲナ。

U 非難《たら・てば》

68. お父さんたら今日も遅いのね。

- ① オトツツァンワ オソエー ナ。
② オトツツァンイヤー キョーモ オソエー ナ。

《「たら」は言わない》

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。

- オトーサンダイヤー コドモノヤーナ コトー イッデ。

III まとめ

1 副助詞「ほど」の用法

江府方言では、副助詞「ほど」が共通語「ほど」よりも用法が広い。以下にその例をまとめる。

- 共通語の副助詞「ほど」と江府方言の「ほど」が同じ意味で用いられているもの。

- 8の例示の「ほど」
- 31の基準の「ほど」
- 57の「～ば～ほど」の「ほど」

- 共通語の副助詞が、江府方言では「ほど」で表現されている例。

- 28の分量・程度を表す「くらい」
- 30の分量・程度を表す「ばかり」
- 43の限定を表す「だけ」
- 45の限定を表す「きり」 用例では「ホッデ」
- 46の強調を表す「しか」 用例では「ホッダ」
- 48の限界を表す「だけ」
- 50の陳述的なものを表す「だけ」

- 副助詞「ほど」の共通語と江府方言の用例比較

	(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの	(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの	(3) 限定・限界などをあらわすもの	(4) 陳述的なもの	(5) モダリティ的なもの
共通語	例示	基準		「～ば～ほど」	
江府方言	例示 1例	基準 1例 分量・程度 1例	限定 2例 強調 1例 限界 1例	「～ば～ほど」 1例	

上記の表からもわかるように、江府方言では共通語の「ほど」にはない、「限定限界」の用法を持っているのが特徴といえる。

2 その他の副助詞の特徴

「ほど」以外の副助詞については、共通語と比較した場合、次のような違いがみられた。

- 共通語「ほど」が 27 の「バカエー」、逆に共通語の「ばかり」が 30 の「ホド」というような入れ替えが見られる。また共通語の「ばかり」は 32 に見られるように「タラ」に言い換えられる。
- 40 や 41 にあげたように、等量の反復、等量の配分で用いられる共通語の「ずつ」は、「ワッテ」と表現される。
- 不確かな気持ちを表す共通語の「やら」が 63 で示したように「ナカエーニ」で表現される。
- はっきり言わない「やら」が 67 で示したように「ダカ」で表現される。
- 非難を表す「たら」が 68 で示したように「ワ」「ヤー」でアクセントを伴って表現される。また、69 のように「てば」も「ダイヤー」の「ヤ」にアクセントを伴って表現される。

以上、個々の差異に関して機能上の分析をすべきであるが、それは後の課題としたい。

3 おわりに

江府町方言には、副助詞「ほど」にみられるように、特徴的な共通語との用法の違いを指摘できる。ただし、江府方言と共通語との対比だけでなく、副助詞「ほど」が歴史的にどのような経緯をたどって、他の副助詞の領域を覆うようになったのかなどの総合的な副助詞の考察は今後の課題である。

また、言語的特徴として気付いたことは、12 番、50 番の「デキー（できる）」、57 番の「モーカー（儲かる）」、60 番の「アー（ある）」などに示されているように、ラ行音の欠落と言う点も特徴である。江府町は、広島県、特に備後地方からの人々の移動が多い地方でもある。14 番の「テゴ（手伝い）」、54 番や 56 番の「イゴカン（動かない）」など、備後方言との共通点も見える。今後、調査を深めていけば、より多くの共通点を見出していける可能性があると考えられる。

（はら かずひろ 広島大学大学院・広島県立安芸府中高等学校教諭）